

テーマ「大学入試を知り尽くす」

日時：5月29日（日）

場所：栄オアシス校

対象：全学年とその保護者

◆講演1／責任者 森晃浩

新大学入試で問われる

“二次力”＝教養を身につける

今の中2生から大学入試は大きく変わります。マークシート方式ではなく記述式の問題が課せられます。センター試験で点数を取っても、二次試験がある大学・学部、入試方法の場合には“二次力”が必要です。採点する大学教授は、たくさんの学生を見てきて、どんな学生が後にどんな活躍をしているのかといったデータが頭に入っています。それと照らし合わせて入学に相応しいかを見る、基準になるのが“二次力”です。

今年5月にオバマ大統領が広島を訪問し、その時のスピーチの訳文を各新聞が掲載しました。それを読み比べてみてください。その違いは、新しい大学入試が目指そうとしているもの、二次試験の記述力と重なります。

また、高校生以上ならもう一步、どの単語がどの日本語に当たるか考えながら、英文を繰り返し読んでほしい。僕はこの英文を読んで、これだけの原稿を仕上げるアメリカという国に感動しました。相当な知識レベルのメンバーが書いており、何度も読むと、日本についてどれだけ研究し、知り尽くしているかわかります。

終戦後すぐに日本に来た女性民族学者の本に、日本人と欧米人の価値観の違いが書いてあります。欧米人は正義か悪かを行動基準にするが、日本人はご近所にどう思われるかを優先する稀な民族だと。流されやすい国民性があり、人生に目標を持っているかというアンケートを取ると、持っている人は4割弱。持たずに生きている人が6割です。その中で、しっかり目標を定めて邁進する。誰が何と言おうと貫いてください。模擬テストはあくまで模擬。E判定が出て落ち込む必要はありません。ジェイ・アンド・サチ塾では、D、E判定の生徒がたくさん志望校に合格しています。基礎からきちんとやれば、模擬テストが終わる11月からも伸び続けられるからです。

そして、“二次力”です。“二次力”とはどれだけ教養をもっているかで、教養はアバウトイコール語彙数。それをつけるには、新聞を読む。本を読む。読んでいる友人を持つ。色々な意見を自分の中に入れていく。そして、考えをまとめて書く。それを何度も繰り返し、潜在意識の中に入れていくことです。

◆講演 2 / 責任者 森幸子

基礎をがっちり固めてから応用へ

まず、センター試験で問われるのは、学校で最初に配布される教科書のレベルがしっかりできているかどうかということです。ここをしっかりとやるのが肝心。でも、親御さんたちもここを抜かして、定期テストの点が取れた取れない云々といった方に目が行く場合があります。数学で言えば、センター試験に相当するのは白チャート。ここができれば黄色チャート、青チャートに行ってはいけません。英語然り、国語でもそうです。

AO 入試は教養、国語力が必要

入試方法のひとつに AO 入試があります。例えば上智大の合格ラインは、ここ 3 年間の資料では、5 点満点の 4.3 以上。TOEFL 何点以上といった詳細が出ているので、それを見ながら高 1 から狙っていけばいい。でないと大変です。選考の時期は 10~11 月なので、高 1~2 の調査書が大事です。では、どんな問題が出るかというと、教養です。試験は小論文と面接で、数学も小論文で判断され、国語力がないと書けません。同じような子が来て競い合うので、なかなか難関です。特に国立大学は難しい。頭に入れておいてください。

学校が見落とすこともある

最新の入試情報を取得

以前、「上智大の英語の推薦をもらいました。英検準 1 級を持っているから、」という生徒がいました。大学の情報を確認したら、TOEFL70/120 以上とあります。英検から TOEFL へ要件が変わったのを高校の先生が見落としとしていて、急ぎよその対策をしました。入試の要件はよく変更になるため、学校が見落とす場合があります。またある生徒はこう言いました。「高校の先生が、部活を一生懸命やっていたら推薦で行けると言った」。どこを狙っているのか聞いたら、名古屋大学工学部。推薦はありません。先生が間違うことがあります。

自分たちで最新の正確な情報をチェックしておかなければなりません。推薦枠があつたりなかったりもしますので、そこもおさえなくてはなりません。

テレビは子どもをダメにする

必要なのは本を読むこと

なぜ単語が覚えられないのか、数学が伸びないのか。考えに考えて、最近やっとわかりました。自分を見つめる力が足りない子が多い。予備校生でも内省する文章を書けない生徒が約 9 割います。原因は小さい時、現在のテレビ視聴時間。日本の家庭では平均 2~5 時間もテレビがついています。養老猛司さんが講演で仰っていました。「テレビの前で笑って

いても、その子が参加しているわけではない」。これが脳にとっていけないと思ったそうです。

今、生徒と話していても、共感する力が非常に乏しいのですが、共感できる子はテレビを見ていません。本をものすごく読んでいます。

ある早稲田志望の生徒は、司馬遼太郎は全部読んで、佐藤優も読んでいますと言う。読んでいないものを貸したら、3日後に感想付きで返してくれました。今、興味あるのはシェークスピア。語彙数が多いから、勉強しなくても現代文は200分の195位、全国2番です。

以前、医学部の3浪目で来た子は、挨拶もしない。敬語もなし。これはダメだと思い、本を貸して読ませました。徐々に文章が品格あるものになり、挨拶も目を合わせてできるようになりました。人格が上がったのです。そして、志望校に合格しました。

オバマ大統領のスピーチの中で、テレビを消して、本を読んでいる、会話が飛び交っているお家と、テレビがずっとついているお家の違いが出るだろうという部分を見つけました。「with simple words」。その訳は、毎日新聞は、シンプルな英知。朝日新聞は、シンプルな良識。中日新聞は、素朴な知恵。日経新聞は、単純な知恵。読売新聞は、単純な英知。前後を見ると、最も品格ある訳は朝日だと、私は思いました。この違いがわかるかどうか“二次力”に出てくると思います。この違いが分かる人間に、私どもの生徒を育てたい。

各紙の訳文を比較してみてください。訳の違いは家のカラー、即ち生き方だとも思いません。ぜひ、見直してみてください。

その人を見抜く、これからの大学入試

今の中2生から大学入試は変わります。余波はもうきています。論理的思考で文章を書けるか。表現ができるか。英文で意見を言えるか、スピーキングはできるか。それには勉強を、たくさんやるのではなく、質よくやっていく必要があります。新聞や映画の字幕など、目にするものを自分の中に入れて、アウトプットする。そうすると語彙数が増えます。正しい日本語を小さい時から植え付けておかないといけません。テレビは消してください。流れているだけでも視聴時間になります。

東大卒で現在、明治大の齋藤隆教授は学生に「響きのいい本を1週間に3冊、声を出して読みなさい」と言うそうです。素読といいます。3ヵ月たったら1週間に5冊。たとえば、夏目漱石を読んだ人はその顔が変わるそうです。だから何を讀んだかわかる、と。深いでしょ？勉強って。

大学教授から見たら、あなたの品格がわかるのです。その人を見抜き、大学・学部に合っているかを判断するのがこれからの大学入試。偶然はありません。すべて必然です。